

令和3年度 第1回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議

- 開催日時** 令和3年7月13日（火） 13:30～
- 開催場所** 諏訪合同庁舎 502号会議室
- 出席委員** 藤森良隆 委員（座長・諏訪森林組合代表理事組合長）片倉正行 委員（元長野県林業総合センター所長）、中村くすみ 委員（カクダイ製材所有限会社）、牛山輝明 委員（原村農林課長）、宮坂佐知子 委員（長野県建築士会諏訪支部支部長）
- 事務局** 小山 諏訪地域振興局長、小宮山 諏訪建設事務所維持管理課課長補佐兼維持係長、小原 林務課長、中島 企画幹兼治山林道係長、青木 課長補佐兼林務係長、岩間 課長補佐兼普及林産係長、青柳 森林保護専門員、宮原 主任

局長挨拶

森林づくり県民税の第3期も3年が経過した。

今期は「防災・減災」、「県民協働」を中心に進めているが、加えて多様な県民ニーズに応えるべく、新たな事業も展開している。

本日は昨年度の実績と今年度の取組について説明する。

昨年度実績に対する効果の検証と評価を頂くとともに、森林税の今後の展開についてもご意見を賜れば幸い。忌憚のないご意見を頂きたい。

会議（会議資料は各委員あてに事前送付）

1. 開催要綱の一部改正及び構成員依頼

＜事務局説明（資料No.1）＞

○各委員

了承（委員を構成員とし、依頼状を交付）

2. 令和2年度取組実績等について

＜事務局説明（資料No.2）＞

○牛山構成員

質問

- 北真志野（諏訪市）の里山整備は、搬出間伐を行ったのか？
→ 切捨て間伐のみ。今後、地域での利活用を検討中

意見

- 森林税の当初は切捨て間伐のみだったため使いづらかった。
- 原村の平地林では搬出間伐を進めたかった。切捨て間伐は実施後の見た目が悪いので、見える範囲については伐採木を片付け、きれいにした方がいいと感じた。

○片倉構成員

質問

- 火とぼし山頂上で実施した眺望伐採とは？そのような施業種はあるのか？
→ 頂上からの眺望確保のための小規模な皆伐を実施。

- 森林税事業で皆伐が可能なのか？

→ 皆伐エリアを限定して実施。

眺望確保のための森林施業は手法が難しいことから、今年度、地域振興推進費を活用して市町村職員や林業事業体を対象にした研修会を計画している。

意見

- 諏訪湖は素晴らしい景観なので、地元（岡谷市）でも眺望確保をしようとしたが、皆伐はだめだと言われた。そのような方法があるなら参考にしたい。

質問

- 「防災・減災のための里山整備」と「県民協働による里山整備」の目標達成率が100%に満たなかったのは何故か？

→ コロナ感染症対策の観点から、人を集めて合意形成をとる機会が取れなかったこと、間伐と併せて実施する危険木の除去に多くの費用が必要となったことなどが原因と考える。

○中村構成員

質問

- 街路樹整備事業ではエンジュを伐採していると思うが、伐採跡の防腐処理は実施したのか？

→ 防腐処理までは実施していない。

意見

- 防腐処理をすれば、伐採跡が痛まない。伐口に水分が入らないような伐採方法もある。

<事務局説明（森林づくり推進支援金実績）>

○牛山構成員

意見

- 推進支援金は多用途に使えるのでありがたい。各市町村も国庫補助金等が使えないところに有効に使っていることが分かった。
- 原村においては、八ヶ岳の眺望確保のために強度な間伐を実施した。
- 眺望が確保できたことにより、エコツーリズムの案内人としてボランティアが活躍するようになった。
- 森林整備にも協力していただいている。

3. 令和3年度の事業計画について

<事務局説明（資料No.3）>

○片倉構成員

質問

- 岡谷市で今年度松くい虫被害が出たが、諏訪管内において発生状況はどうか？

→ 管内は被害区域にはなっていない。

単木での枯損が見られるが、市町村で適切な処理を行い、被害は拡大していない。岡谷市以外の松くい虫被害は、昨年度茅野市で一本発生した。

- 「複層林を目指す地域」としてゾーニングされている地域において、下層のヒノキが成林したのに、間伐施業として上層のアカマツがすべて伐採できない状況（材積伐採率の影響）となっている。林業施業技術から乖離していないか？
 - 現在、複層林の上層木の間伐施業においても材積伐採率が適用されている。整備対象森林の状況や目的から、施業方法を柔軟に検討して、画一的な施業にならないよう検討していきたい。ゾーニングの見直しも必要。

○藤森座長

質問

- 令和3年度計画に対しては、概ね十分な予算が手当されていると考えてよいか？
 - 「ライフライン等保全対策事業」や「観光地当魅力向上森林景観整備事業」については予算以上の要望がされている状況。

4. 今後の森林税事業について

○宮坂構成員

意見

- 建築の立場からウッドショックの影響は諏訪地域でもあると言える。材料が滞り、工期が間に合わないケースもある。
- 外材が入らなくなり、国産材や県産材を調達しようとしても単価が高い。
- 国有林から使えるものをもっと出材して欲しい。
- 50年後を見通して、林業と建築の連携強化を図っていくことが必要と考える。